

# 「東アジアの人文知」主催

## 第7回国際フォーラム「越境する人文知」

2018年7月25日(水)

戸山キャンパス 33号館第10会議室

7月25日(水)午前11時から戸山キャンパス33号館第16階第10会議室にて、総合人文科学研究センター部門「東アジア人文知」主催の第8回国際フォーラム「越境する人文知」が開催された。

第七回目を迎えたこの国際フォーラムでは、10名の訪問学者・交換研究員の方々に本学での研究成果を発表して頂き、共に議論する学術交流を行った。今回は本部門代表者の千野拓政教授の開会挨拶から始まり、10名の研究者が順次発表を行った。発表者、コメンテーターは次の通りである。(敬称略)



1. 馬嬌嬌 (北京大学中文系博士後期課程)

「新文芸の抗戦期中の流動と農村における動員—「西北戦地服務団」を中心に(1939-1944)—」  
司会、コメンテーター：張宇博

2. 呂彦霖 (南開大学文學院中国現当代文学専攻博士後期課程)

「「冷凍」された青年期代表作とその改変—姚雪垠『花ほころぶころ』版本の考察」  
司会、コメンテーター：劉茜

3. 陳鵬安 (北京師範大学外国言語文学学院日本語学科博士課程)

「重訳における「恩」の構造の転換——『侠黒奴』を中心に」  
司会、コメンテーター：郭濟飛

4. ティム・カワニシ・ヤング (スタンフォード大学大学院東アジア言語文化科博士課程)

News and Narrative in the Satsuma Rebellion (西南戦争におけるニュースとナラティブ)  
司会、コメンテーター：鳥羽耕史

5. 姚瑶 (早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース)

「日中感動詞のイントネーションの類型に関する一考察—「あ」・「阿」を例として—」  
司会、コメンテーター：呂妍

6. 呉慶霞（早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース博士後期課程）  
「とりたて表現に関する研究—日本語のサエ、マデ、モと中国語の“连…都/也”を中心に—」  
司会、コメンテーター：三浦さつき
  
7. イ・ギョンミン（早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース博士後期課程）  
「テキストの時間的構成に関する研究」  
司会：ジョン・ビョンミン　コメンテーター：三浦さつき
  
8. 三浦さつき（早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース博士後期課程）  
「現代語の逆接条件文トコロゲー逆接仮定条件文体系における位置づけ—」  
司会：呉慶霞　コメンテーター：イ・ギョンミン
  
9. 范維偉（北京師範大学比較文学与世界文学研究所博士後期課程）  
「五山の書齋図詩画軸に見る文人趣味及び隠逸思想——万里集九・玉隠英瑛賛「梅野図」を中心に」  
司会、コメンテーター：崔鵬偉
  
10. 鄭子成（暨南大学文学院博士課程）  
「唐五代小説中の碑銘及其文体的“缺席”」  
司会、コメンテーター：岡崎由美　通訳：渋谷君也

各研究者の発表の後は質疑応答、意見交換が行われた。今回のフォーラムでは、文学作品、イントネーション、文法など多岐にわたる分野の発表が行われたので、議論が盛り上がった。そして、延べ36名の方々が来場しこのフォーラムの議論に参加した。最後に、本学の鳥羽耕史教授の閉会挨拶を持ち、午後5時40分に終了した。第7回フォーラムも多くの国の研究者による興味深い発表、議論が行われた。

（報告：洪 性珉）



〈当日のフォーラムの様子〉